◎ 美術館情報

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください。

1. 岐阜県現代陶芸美術館【岐阜・多治見】（https://www.cpm-gifu.jp/museum/events/event/event-9901）

6 月 28 日（土）～9 月 28 日（日）

特別展：伊藤慶二　祈・これから



伊藤慶二（1935 年生まれ）は、岐阜県土岐市出身、現在も同地を拠点に制作を続ける作家です。武蔵野美術学校（現・武蔵野美術大学）で油画を学んだ後、美濃へ戻り岐阜県陶磁器試験場に勤めた伊藤は、陶磁器デザイナーの日根野作三（1907～1984）との出会いなどを通じ、本格的に陶芸の道に入りました。クラフトの器から始まった伊藤のやきものの制作は、すぐに陶による造形、オブジェへと拡がりをみせ、多様なメディウムを取り入れながら、軽やかに、自在に展開していきます。多岐にわたる伊藤の創作を貫くものは、ひとの精神、生活、そして社会に対する真摯なまなざしです。寡黙ながら、確かな手触りと存在感を抱えるその作品は、私たちを取り巻く社会、日々の生活、当たり前に在るものごとの根底への思索を誘います。本展では、今年 90 歳を迎える伊藤慶二のまなざしが伝わる「HIROSHIMA」「沈黙」「尺度」「いのり」などの代表的なシリーズ、そして新作となるインスタレーションを通じて、その足跡と、とめどない創作の現在地を紹介します。

2. サンリツ服部美術館【長野・諏訪】（https://sunritz-hattori-museum.or.jp/pages/265/）

6 月 6 日（金）～8 月 31 日（日）

企画展：響き合う陶磁器の色　三彩と五彩



中国では、高い技術と研ぎ澄まされた感性によって数々の陶磁器の名品を生み出してきました。特に鮮やかな色彩で知られているのが三彩と五彩です。どちらも複数の色で装飾されていることからつけられた名称ですが、三彩は素地に釉薬を掛け流すのに対し、五彩は上絵具を用いて文様を描いています。器面を覆う艶やかな釉薬、絵画のような精緻な文様など、さまざまな技法と絶妙な配色で華やかに彩られた中国陶磁からは、当時の人々の美意識を感じることができるでしょう。本展では、サンリツ服部美術館が所蔵する三彩と五彩の名品を一堂に会し、色彩豊かな中国陶磁の魅力を紹介いたします。

3. パナソニック汐留美術館【東京・港区】

（https://panasonic.co.jp/ew/museum/exhibition/25/250712/）

7 月 12 日（土）～9 月 15 日（月・祝）

企画展：ピクチャレスク陶芸　アートを楽しむやきもの－「民藝」から現代まで



陶芸は、絵画や彫刻など隣接分野と呼応しながら今日まで表現を展開してきました。本展では、色彩や質感、絵画的表現との関わりなどの観点から陶芸の本質を再考します。「民藝」から、伝統工芸、前衛陶芸、コンテンポラリーまで、日本の近現代陶芸史に残る名品や知られざる名作を横断しながら、同時代の海外作家による作品、陶芸と共鳴する油彩やドローイングも併せて展示し、新たな視点から陶芸の魅力を紹介します。